

第 1 回 豊橋市行財政改革プラン外部検証委員会

1. 開催日時 平成 28 年 6 月 2 日（木）午後 3 時 30 分～午後 5 時 00 分
2. 開催場所 豊橋市役所東 4 1 会議室（東館 4 階）
3. 出席者 委員 5 名（石原委員長、伊藤委員、大久保委員、諏訪委員、村松委員）  
豊橋市 6 名（野尻総務部長、前田行政課主幹、野中行政課長補佐）
4. 欠席者 世羅副委員長、富田委員、功刀委員
5. 会議概要 以下のとおり

発言者	要 旨
事務局 (行政課主幹)	<p>定刻となりましたので、ただ今から、第 1 回豊橋市行財政改革プラン外部検証委員会を開催いたします。</p> <p>開会にあたりまして総務部長の野尻より一言ご挨拶を申し上げます。</p>
総務部長	<p>新しい行財政改革プランの懇談会の委員を引き受けていただき、まずもって感謝申し上げます。今回お集まりいただいたのは、今までの行財政改革プランにおいて一定の成果と課題がありましたが、個々の総括がまだできておりませんのでそれをお願いしたいということで、また 1 年お付き合いいただきたいと思えます。豊橋市の行財政改革のために今後ともご尽力とご指導いただくことをお願い申しあげて挨拶とさせていただきます。</p>
事務局 (行政課主幹)	<p>委嘱状につきましては、机上用意致しましたので年度末まで保管ください。引き続きよろしくお願い致します。また、今年度の事務局職員が変わっておりますので、紹介させていただきます。</p> <p>《市側紹介》</p> <p>それでは、ここからは石原委員長にお願いいたします。</p>
石原委員長	<p>それでは、今日の次第に沿って 3 の（1）委員の皆様にご般依頼させていただいた「書類評価依頼等について」、事務局より説明を願います。</p>
事務局 (行政課主幹)	<p>《議事 1 書類評価依頼等について説明》</p>
石原委員長	<p>続いて次第 3 の（2）にございます、「書類評価結果について」、事務局より説明を願います。</p>

発言者	要 旨
事務局 (行政課主幹)	《議事2 書類評価結果について説明》
大久保委員	No.124について、私が妥当から要検討に変えました。元々のB評価からD評価いきなりダウンしてしまいましたので、それならばやはり妥当より要検討ではないかと。最初は、妥当でもよい内容ではないかと思いました。
石原委員長	これは、引き続き行革で厳しいところを進めていく中で、ここで例えばA評価にしておしまいになってしまうように、という意図での大久保委員の要検討という評価であれば、ここは妥当、という評価にしてはいかがでしょうか。
大久保委員	異論ありません。
石原委員長	5年たって評価する際にも、そもそもの目標が高すぎたとか目標自体の検証はされてないですね。 行革も難しく、計画の妥当性は外部評価の対象になっていません。 では、次の議題に行きましょう。
事務局 (行政課主幹)	《議事3 評価手法・進捗管理等について説明》
石原委員長	それでは、これまでの評価手法・進捗管理等についてご意見をお願いします。 私が思うに、外部評価も確認する量が多いとどうしてもじっくり見られないのですが、その中でも外部評価として大きなベクトルを堅持して役所の皆さんと一体化、役割分担をして行革をやっていくことができると思う。
村松委員	これから先どうなっていくかを読み取っていくことも大切だと思う。しかし、その年度の数字にだけ真剣で、後の年度の計画の記載については、その時にならないとわからないと簡単に判断をしているように見えるものが多かった。これが外部の人の評価を受けると意識が感じられない。 私たち外部が見るからには、同じような項目に少し足したような目標値を並べておくといったことをせずに、1年先におこる変化を予想して数字を出して欲しい。同じ数字が並んでいると、熱意、誠意を感じられない。 批判するためではなくて、よりよい豊橋にするために外部評価をしているつもりです。

発言者	要 旨
石原委員長	役所の幹部には、自分たちで進めにくいことを外からひとこと言っただけで欲しい、と委員に要望してくるようなしたたかさが欲しい。
村松委員	目標をつくっていくのはすばらしいことだと思うが、つくって安心してしまうのではよくない。
諏訪委員	網羅的に取組まなければならないのは仕方ないが、抑揚をつける必要がある。たくさん取組の中でもこれはやりたい、という意思表示がなく、意図が分からない。職員の姿勢を見せてほしい。節約・削減だけなら外部委員会をしなくても財政課の査定で十分なので、行財政改革としてやるからには、やりたいことが伝わるように書いて欲しい。
伊藤委員	<p>目標値自体が妥当かどうかはまず重要である。そのため、当初たてた目標を年度ごとに見直して書き換えることがもっとあっていい。</p> <p>行政も社会の変化の中にあるわけだから、目標値そのものの見直しをするべきではないか。</p>
諏訪委員	同じように計画の妥当性を考えるうえで、役所内部の評価を知りたいと思う。担当課の評価と役所内の第三者、例えば行政課の評価を把握して、そして我々役所外部の評価を出したい。
石原委員長	<p>施策を把握してプランをたてることも重要である。</p> <p>そのために管理職への研修と行革プランをセットで行うことも考えられる。</p>
村松委員	<p>何の計画もなしに小さなところばかりを見て、必要性のある福祉などを簡単に削減しているように思う。</p> <p>そこの意図・妥当性を説明できるようにする必要がある。</p>
諏訪委員	予算の削減よりも、質のいい人材の確保が必要な部署もある。
石原委員長	<p>行財政改革プランではあるが、前回のプランは財政健全化にだいぶ主眼が置かれているので、もっと“行”、人材育成に取り組む必要がある。</p> <p>それでは最後に4その他について、事務局より説明願います。</p>
事務局 (行政課主幹)	《4 その他について説明》

発言者	要 旨
石原委員長	<p>財政的な側面はよい。</p> <p>行政のサービス効率化はすでにできている。次は、部分最適が全体最適にならないなど、そういったところに踏み込んでいけるようになるとよい。強みを伸ばしていらなところは捨てることをすべき。行政は、つくることは多くしているが、潰すことを基本的にしていないのでそこを見直さないといけない。</p>
諏訪委員	<p>昨年提出された意見書に、地域経営というものがあつた。地域経営のどの部分を豊橋市は導入できるか。直営で行うものと地域で経営するものの峻別することに手をつける時期に来ている。</p>
石原委員長	<p>行政はサービスをくれてやるのではなく、市民のニーズを聞きとりながら一緒に作り上げていく、住民を巻き込んで何を共に創っていくか考えること（コ・クリエーション）が必要だ。</p>
諏訪委員	<p>住民の意識を行政依存から変えていくきっかけをつくって欲しい。</p>
石原委員長	<p>それでは、検証委員会は以上です。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>次回は7月4日（月）です。よろしく申し上げます。</p>